

『公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶ  
ケーススタディ集』



【公衆衛生医師の確保と育成に関する調査および実践事業】  
地域保健総合推進事業 全国保健所長会協力事業

社会医学系専門医が身につけるべき  
8つのコンピテンシー

1. 基礎的な臨床能力
2. 分析評価能力
3. 事業・組織管理能力
4. コミュニケーション能力
5. パートナーシップの構築能力
6. 教育・指導能力
7. 研究推進と成果の還元能力
8. 倫理的行動能力



講師

【長崎県県央保健所】

保健所長

宗 陽子 先生



ブロック別指導医講習会の実施報告！

令和6年9月5日、九州ブロック保健所連携推進会議に合わせて  
「社会医学系専門医協会指導医講習会（九州ブロック）」が  
開催されました。

座長：川上 総子 長崎県西彼保健所長

講師・記録：宗 陽子 長崎県県央保健所長

今回はハイブリッド開催で、参加者数は保健所連携推進会議36名、指導医講習会  
40名（現地参加23名、オンライン参加17名）でした。

今回の指導医講習会は、「社会医学系専門医制度について」の講話に加えて、「公  
衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」を用いたグループワーク  
を実施しました。

全体のテーマを「社会医学系専門医に求められるコンピテンシー」とし、「社会医  
学系専門医制度について」の講話の中でも、コンピテンシーについての説明を加えま  
した。

コンピテンシーは、「職務や役割における、効果的ないしは優れた行動に結果的に  
結びつく個人特性」とされていますが、これは、1970年代にハーバード大学で心理学  
者であるマクレランド教授が、高業績の外交官と平均的な外交官を比較し、仕事上の  
行動にどんな違いがあるのか研究を行った結果、高業績者は、IQよりも動機や性格  
などの心の内面を原動力とする行動により成果や目標を達成していると報告したこ  
とに由来しています。

社会医学系専門医研修プログラム整備基準の中では、社会医学系専門医が身につ  
けるべき8つのコンピテンシーが示されており、指導医としても、このコンピテン  
シーについて十分に理解し、専攻医が身につけることが出来るよう日々の指導にお  
いて意識することが必要であると考えられます。

社会医学系専門医に関する

お知らせ

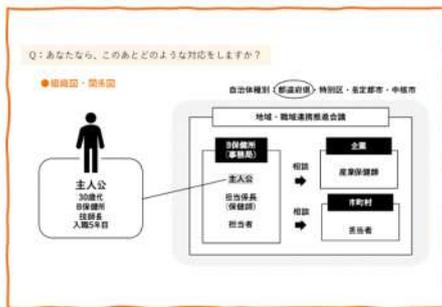
9月3日に、医師法施行規則等の一部を改正する省令が公布され、  
本年12月末時点の業務従事状況の報告の様式において、(1)  
「主たる業務内容」の欄に「公衆衛生業務」が追加されるととも  
に、(2)「取得している広告可能な医師の専門性に関する資格名、  
麻酔科の標榜資格、社会医学系専門医及び医師少数経験認定医  
師」の欄に「社会医学系専門医」が追加されました。

詳細は社会医学系専門医協会HP  
<http://shakai-senmon-i.umin.jp/>

医師法施行規則等の一部を改正する省令（令和六年厚生労働省令第百二十一号）  
第二号書式  
[https://laws.e-gov.go.jp/data/MinisterialOrdinance/323M40000100047/621156\\_1/pict/2FH00000074321.pdf](https://laws.e-gov.go.jp/data/MinisterialOrdinance/323M40000100047/621156_1/pict/2FH00000074321.pdf)  
でご確認ください。

後半では、専攻医の指導に役立つ資料として「公衆衛生  
医師業務とコンピテンシーを学ぶケーススタディ集」を用  
いたグループワークを実施しました。このケーススタディ  
集のコンセプトは、「公衆衛生医師が身につけるべきコン  
ピテンシーがどのように業務の上で使われているのかを  
ケースを通して学ぶことのできる教材」です。まず、8つ  
のコンピテンシーをおさえた上で、ケーススタディ集の目  
次や使い方などについて説明しました。

グループワークでは、CASE 4「保健所で地域職域連携に  
取り組もうと一所懸命にもがいた結果、飛躍的に推進でき  
た事例」を使用しました。この後に、九州ブロック保健所  
連携推進会議で女子栄養大学特任教授の津下一代先生によ  
る健康づくりに関する講義が行われる予定であったため、  
それぞれの保健所での取り組みについて共有できる機会に  
もなると考え選定しました。グループワークでは、隣の人  
と話し、テーブルの前後でグループを作って意見を出し合  
いまとめるなど即興で行いましたが、九州ブロックでは普  
段から顔の見える関係性が出来ていることもあり、話し合  
いも大変盛り上がりました。



## グループワーク

- ①まずはシンキングタイム(3分)
- ②次に隣の方と話してみましょう(5分)
- ③テーブルの前後でグループになって  
意見を出し合い、まとめて下さい(7分)
- ④発表 3名ほどお願いします(5分)

3名の方に下記の意見を発表していただきました。

・地域診断の部分が共有されてないのかもしれない。そこ  
はまず勉強会とか研修会とかを通じてみんなで共有を図る  
ことが大事。

・相手の意見を一旦受け止めて思いを聞きどんなテーマが  
良かったのかを聞いた上で、その後自分の考えを述べて、  
今後は共に一緒に考えてほしいということで仲間に引き寄  
せるような活動が必要。

・企業の保健師さんは、例えばメンタルヘルスや禁煙対策、  
職業によっては腰痛の予防対策などですごく忙しい中で、  
なんで自分の企業の中にはいらっしやらない透析の対策が  
取り上げられてるのだろうと思うかもしれない。認識の違  
いというのを解消するために、同じような、HbA1cが高いた  
とかeGFRが低いとかそこにアプローチしている企業の保健  
師さんを招いて勉強会とかを企画して、そこでやんわりと  
あの趣旨が伝わるような雪解けしていければ良いと思う。

また、アンケート回答でもグループワークは大変好評で  
した。ケーススタディ集の存在を初めて知った方も多く、  
今後、指導や自己研鑽に活用したいとの声も多く聞かれま  
した。コンピテンシーについても、意識しながら業務に取り  
組みたい、ポイントとして押さえておくべき言葉を講師  
が明確に示したことでより理解が深まったなどの声もあり  
ました。今回は「コンピテンシー」をキーワードとして講  
話やグループワークを企画できたことが良かったと思いま  
す。「公衆衛生医師業務とコンピテンシーを学ぶケースス  
タディ集」を専攻医への指導や若手勉強会、医学部生向け  
の講義や実習など様々な育成の場面で積極的にご活用いた  
だけますと幸いです。

全国保健所長会ホームページからダウンロード可

[https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2023\\_file01-2.pdf](https://www.phcd.jp/02/kenkyu/chiikihoken/pdf/2023_file01-2.pdf)

ご報告の作成と講師を務めていただいた宗 陽子 長崎県県央保健所長ありがとうございました。  
次回は中四国ブロックの様子をお伝えいたします。引き続きよろしくお願いたします。

発行責任者：横山勝教（公衆衛生医師の確保と育成に関する委員会委員長）